



N-BLOOD
NISMO Communication Magazine



NISMO Communication Magazine **N-BLOOD** 2026 / April No.110 Nissan Motorsports & Customizing Co., Ltd

SAMPLE

N-BLOOD

NISMO Communication Magazine
2026 / April
No. **110**

nismo

Produced by Nissan Motorsports & Customizing Co., Ltd

狙うは、頂点

5戦までを終えて、3度の表彰台フィニッシュ
しかし、ほんのわずかな歯車の狂いが
手が届きそうな勝利を遠ざける——
それでも、チームが諦めることはない
この逆境こそが、王者をさらに強くする
胸に宿るチャンピオンの誇りをかけて、反撃の狼煙が上がる



SAMPLE

- 4 **CEO INTERVIEW**
CEOインタビュー 真田裕
- 8 **2026 NISSAN MOTORSPORTS PROGRAMS**
日産系GT500チーム体制紹介
- 10 **INTERVIEW with TEAM DIRECTOR**
松田次生新監督インタビュー
- 12 **THE INSIDE STORY - 2026 NISSAN Z NISMO GT500**
2026年、王座奪還への決意
- 14 **FIA Formula E World Championship Season12**
2度の表彰台フィニッシュ
ローランドはランキング3位に
- 18 **NISSAN MOTORSPORT DNA AROUND THE WORLD**
様々なカテゴリーで活躍する
日産/NISMOのDNAをご紹介します
- 20 **MOTORSPORTS**
Paddock TOPICS
- 22 **CIRCUIT GUIDE**
レースウィーク充実“虎の巻”
富士スピードウェイ編
- 26 **DEVELOPMENT STORY - AURA NISMO RS Concept**
「尖った」未来を切り拓く
- 30 **NISSAN LEGEND CARS**
日産テラノ (R50)
悠久の大地を駆け抜ける
- 32 **NISSAN STAFF**
NISMOお仕事図鑑
愛車のパフォーマンスを維持して
いつまでも楽しく乗るための整備
【第5回】羽田凌太
- 34 **NISSAN PRODUCT**
ノート オーラ NISMO用NISMOスポーツリセッティングTYPE-2
スカイラインGT-R用NISMOヘリテージパーツ追加発売
- 36 **WORKS TUNING CIRCUIT DAY**
ワークスチューニングサーキットデイ 2026年も開催決定
- 37 **2026 RACE AMBASSADOR**
23号車を一緒に応援してくれるメンバーをご紹介
- 38 **NISSAN/NISMO COLLABORATION GOODS**
SUPER GT限定品の販売が今季もスタート!
- 39 **PRESENT**
読者プレゼント

GT500クラスは3台体制へ 集約もたらす連携

N-BLOOD 編集部（以下 NB）：今季のモータースポーツ参戦体制などについてうかがいたいと思いますが、まずは昨シーズンの SUPER GT GT500 クラスを振り返っていただけますでしょうか。それぞれ光る走りを見せた場面もありましたが、真田 CEO の目にはどう映っていましたか。
真田裕（以下真田）：昨年は、私が NMC の CEO として初めてともに戦ったシーズンでしたから、

非常に記憶に残る 1 年になりました。ただ、正直に申し上げれば、序盤戦はかなり苦戦しましたね。各チームの雰囲気もライバルに対して“絶対に行けるぞ”という確信、あるいは自信を持ち切れていない印象がありました。そんななかで、自分にはできることは何かを自問自答していました。
NB：チームの空気が変わったきっかけがあったのでしょうか。
真田：明確なターニングポイントは、第 4 戦の富士でした。スプリントレースが行われた週末、私はチームのスタッフと「せっかくお客様がわざわざ

サーキットまで観に来てくださっているのに、我々の『誇り』をしっかりと見せられるレースをしないと申し訳ない」という話をしました。

これが思いのほかスタッフの心に刺さったようでした。その富士でセットアップも決まり始め、行けるのではないかと手応えと勢いを作れたことが、次の鈴鹿での勝利に繋がったのです。

第 5 戦鈴鹿での 23 号車の勝利、スポーツランド SUGO で 24 号車が挙げた劇的な勝利、そして最終戦も含めて、今シーズンに繋がる良い終わり方ができたと思います。苦しい時期を乗り越えて、ドライバー、チーム、エンジニアのコミュニケーションの歯車が噛み合い始めたという実感がありました。

NB：そして 2026 年、SUPER GT は 3 台体制という新たな布陣で挑みます。4 台から 3 台への集約、この戦略的な真意を教えてください。

真田：今年は、正直に言ってかなりいい戦いができると思っています。まず大きなトピックは、松田次生さんが 23 号車の監督に就任したこと。彼はまだ現役のレーシングドライバーで、常にレース勘を磨き続けています。それに、彼は NISMO のドライバーとしてだけでなく、TEAM IMPUL でも、KONDO RACING でも戦ってきた経験があり、全チームのスタッフと現役時代から培ってきた深い信頼関係がある。

台数としては 4 台から 3 台になりますが、その分、日産陣営としての横の連携をこれまで以上に強めます。特に 24 号車がブリヂストンタイヤを履いて新しいチャレンジを始める今シーズン、次生さんが各チームを繋ぐハブの役割を果たしてくれる。彼がキーマンになっていくのではないかなど、私は感じています。

NB：開発面での手応えはいかがでしょう。

真田：GR 勢によって一方的に押されている悔しさのなかで開発を進めていた 2026 年仕様が、非常にいい仕上がります。重要なのは、単に速くなったというだけでなく、改善の理由をドライバーとエンジニアが理解し共有できていることです。だからこそ、開幕ギリギリまで緻密な開発を



思うようにいかない苦しさも味わった2025年。2026年のSUPER GT GT500クラスは3台にリソースを集中して、王座奪還を期す。

次生監督が各チームを繋ぐハブの役割を果たす キーマンになっていくと感じています

進めていくことができます。2025 年はセバンのテストで良くても、開幕してみると苦しい場面がありました。今年はその根本的に違います。

NB：今シーズン、それぞれのチームに期待することを教えてください。

真田：まず TEAM IMPUL ですが、星野一義総監督からは、毎レース多くのことを学ばせてもらっています。星野さんは常に『お客様があつてのレース』という視点なのです。『お客様に喜んでもらって、楽しんで帰ってもらわないと意味がない。そうじゃないとプロではない』と。平峰選手やバケット選手の、拳動を見ただけで「あ、インバルが来た」と分かるアグレッシブな走りは、まさに“星野イズム”を体現しています。今年もトップを狙うだけでなく、お客様を熱狂させる走りを見せてくれるでしょう。

NISMO に関しては、日産のエースとして背負っているものが大きいです。千代選手と高星選手のタッグは、私が見る限りさらに強固になりました。昨年の第 5 戦での勝利以降、特に高星選手が自信をつけてきている印象があります。ミーティングでの発言も、声のトーンも、メンタルが非常に安定しているように見えました。

KONDO RACING には、新たに島田エンジニアが加わりました。島田さんは去年まで 3 号車を率い、ブリヂストンタイヤとのマッチングを磨き上げてきた人です。この島田さんのノウハウは、

近藤監督にとって重要なサポートになるのではないかと期待しています。

全体を見れば、どのチームにも勝ってほしいという気持ちですが、星野さんは常に『23 号車を追い抜け！』と闘志を燃やし、若手がそれに食らいつく。この健全な競争心が、日産陣営をさらに強くしてくれるはず。やはり 23 号車が勝つと、私たち NMC はもちろん、日産自動車グループの社員に与える心理的影響も大きいので、千代選手にも高星選手にもしっかり頑張ってもらいたいですね。

NB：柳田さんがエグゼクティブアドバイザー、ロニーさんが NISMO アンバサダー兼アドバイザーとして、サポートにつくのも大きいですね。

真田：彼らは複数回のチャンピオンを獲得した実績があり、人気もあります。このふたりに松田さんを加えた三人衆が日産陣営にいてくれることが、とても心強く感じています。3 チームと合わせて、SUPER GT のレースを面白くできる要因になると思いますね。

王座防衛のシーズンとなるFE 東京大会では勝利を狙う

NB：タイトル防衛のシーズンとなるフォーミュラ E についてもお聞きします。今シーズン序盤戦を、どうぞ覧になっていますか。

真田：トマン・ヴォルベ監督とは 3 日に 1 回は

リモート会議をしています。彼はものすごく悔しがっています。「クルマは間違いなく速いのに勝てない、戦略負けした」と。

たとえばマイアミでは、天候の読みがわずかに外れて好成绩を逃してしまいました。しかし、ジェッタでの 2 戦目ではわずか 1 日でセットアップを修正し、予選・決勝ともに速さを発揮することができました。あとは、1 勝を挙げることができれば、歯車がガチャッと噛み合っ一気に勢いに乗れる。その自信はあります。

オリバー選手も 2 年連続のドライバーズタイトル獲得に向けて本気モードです。ダイエットをして、アスリートとして極限まで仕上げてきますので、中盤戦に向けてぜひ期待していただきたいですね。

NB：今年の東京 E-Prix は、ナイトレースになります。これまでの東京 E-Prix と比べると、ナイトレースは条件がまったく違うと思いますが、そのあたりへの対処はどうされますか。

真田：我々にとって東京はホームレースです。トマンもオリバーも、東京で勝つことが最大の荣誉だと考えています。表彰台の真ん中で日の丸を掲げ、君が代を響かせたい。そのために、パリの拠点では最先端のシミュレーターを駆使し、あらゆる温度・湿度条件を想定したシナリオメイキングを行っています。タイトル争いの中心にオリバーがいる状態で東京を迎えられたら、これほど最高

CEO Interview 真田 裕

日産モータースポーツ&カスタマイズ株式会社
代表取締役社長兼最高経営責任者

お客様に対して最高の結果と 最高のクルマを届けたい

SUPER GT GT500 クラスの 3 台体制への集約
フォーミュラ E での王座防衛
そして話題を呼んだ「AURA NISMO RS Concept」
就任から間もなく 1 年、陣頭指揮を執る真田裕 CEO に
これらの取り組みとファンへの想いを聞いた

